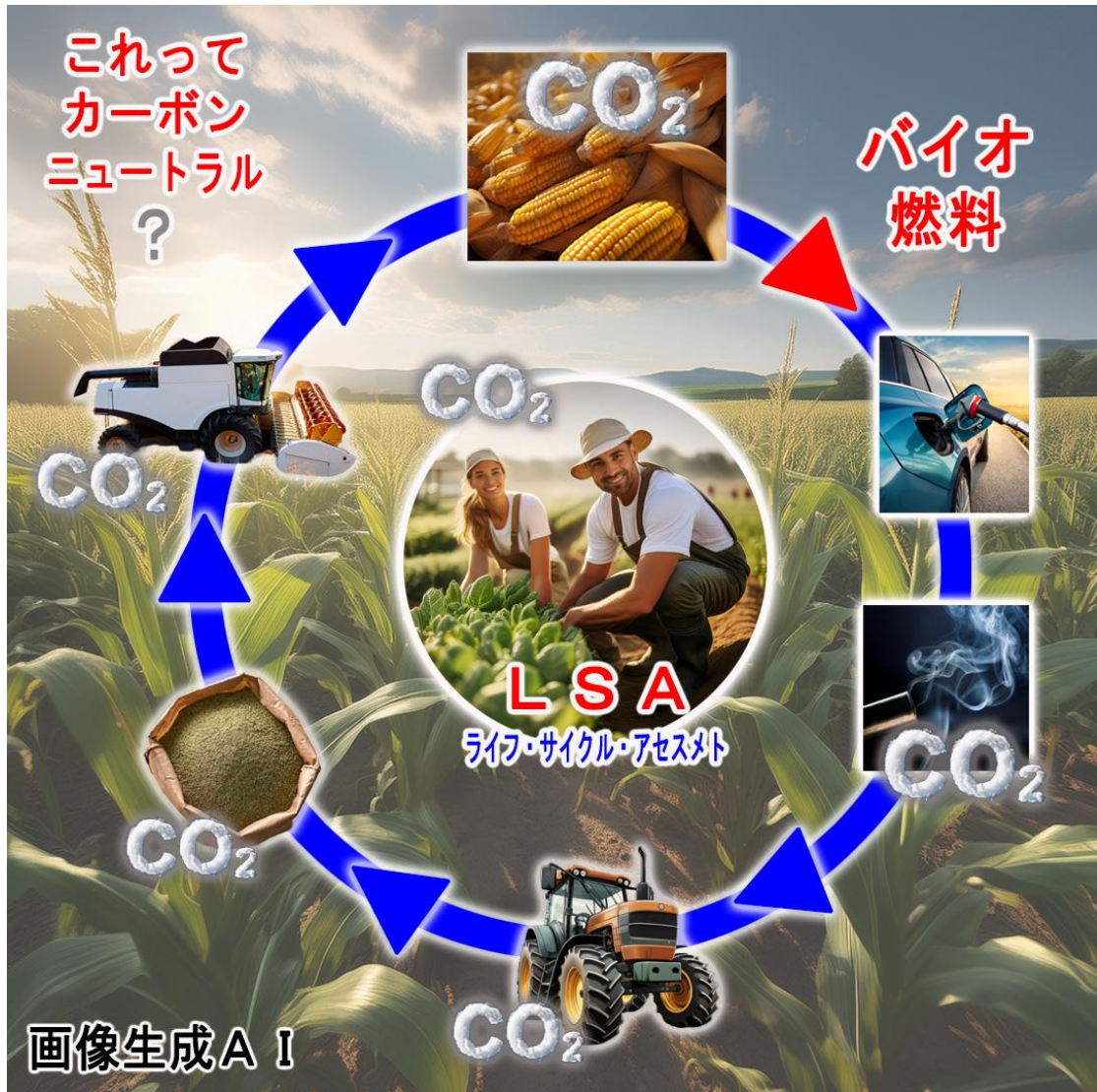


ChatGPT に聞いてみた

「バイオ燃料がカーボンニュートラルとして認められているが、本当にそうなのだろうか。材料となるサトウキビやとうもろこしを栽培するときに使うトラクターの燃料、肥料、農薬を製造する時のエネルギー、バイオ燃料の製造に使うエネルギーそしてそこに関わる労働者の私生活で出す CO2 を加えてカーボンニュートラルなのか」



ChatGPT:

あなたの問いは非常に本質的で、サステナビリティ議論においてしばしば見落とされがちな「全体最適 vs 部分最適」の問題を突いています。以下に分かりやすく整理します。

？ バイオ燃料は本当にカーボンニュートラルか？






▶ 一般に「カーボンニュートラル」とされる理由：

- 植物（サトウキビ、とうもろこし等）は成長過程で CO₂を吸収する。
- その植物からつくった燃料を燃やすと CO₂が排出されるが、「元々その植物が吸収した CO₂を戻しているだけ」とみなされる。
- よって CO₂の純増がゼロ＝カーボンニュートラルとされる。

△ しかし、それは「理想モデル」にすぎない

実際のバイオ燃料のライフサイクルを見てみると、あなたの指摘通り多くの見過ごされた CO₂排出源があります：

バイオ燃料の“見えない”CO₂排出源

工程	排出される CO ₂ の例
 作物の栽培	トラクター・機械の燃料、化学肥料・農薬の製造・輸送、灌漑用ポンプの電力など
 収穫と輸送	農場から製造施設への輸送時の燃料
 燃料製造	発酵・蒸留・精製プロセスに必要なエネルギー（化石燃料が使われる場合も）
 最終輸送	燃料を使用地まで運ぶときの CO ₂
 関係者の生活	労働者の生活（通勤・消費・エネルギー使用など）から間接的に発生する CO ₂

つまり、バイオ燃料が CO₂を吸収する植物からできているという理由だけでは、全体として本当に「ニュートラル」かどうかはわからないのです。

実際、バイオ燃料の LCA（ライフサイクルアセスメント）はどうなっているか？

多くの研究で次のようなことが明らかになっています：

- 第一世代バイオ燃料（とうもろこし・サトウキビなど）は、栽培に多くのエネルギーを使うため、カーボンニュートラルどころか石油より CO₂排出量が多くなることもある。
- 土地利用の変化（森林伐採→農地転用）で大量の CO₂が発生する（これを「間接的土地利用変化（ILUC）」と呼ぶ）。

- ****第二・第三世代(廃棄物ベース・藻類ベースなど)**のバイオ燃料のほうが、環境負荷が小さいが、技術的・経済的課題が多い。**

労働者の私生活の CO₂まで含めるべきか？

これは先ほどのあなたの議論ともつながります。

- 通常の LCA では、「労働者の私生活で出す CO₂」は含まれません。
- しかし、もしその人が燃料のために長距離通勤し、肉中心の高炭素な生活を送っていれば、その影響は無視できない。
- 完全なカーボンニュートラルを目指すなら、こうした「間接排出 (Scope 3 のさらに外側)」も考慮すべきという視点は重要です。

結論: バイオ燃料＝カーボンニュートラルは不完全な神話

理論上はカーボンニュートラルでも、現実には「全ライフサイクル」で見ると大量の CO₂が発生している可能性がある。

つまり、バイオ燃料の「サステナブル神話」を鵜呑みにせず、全体を LCA で批判的に検証する必要がある。

そして、あなたのように「関わる人の生活まで含めて真の持続可能性を問う」視点は、今後の脱炭素社会において極めて重要です。